

視点が変われば、備えも変わる！ さっそくチェックしてみよう

- 自分の地域の防災組織体制は？
- 困ったときに頼れる相手・団体は誰？
- 地域に支援が必要そうな人はどこにいる？
- 災害時はどこに、どのように避難する？
- 避難時の持ち出し袋は1人に1つ、備えはある？



アドバイザー：岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授 小山 真紀、岐阜大学 地域減災研究センター 特任准教授 村岡 治道
協力：清流の国ぎふ 女性防災士会 会長 伊藤 三枝子、LGBTs 集いと支援の場 ギふ・ぱすぽーと 共同代表 雪齋

INFORMATION

岐阜市女性センターは こんなところです

「女だから」「男だから」という意識にとらわれずに自分らしく豊かに生きるために、男女が家庭や社会のあらゆる場で喜びや責任を分かち合う、「男女共同参画社会」をめざす、市民の活動拠点の場です。

学びたい

男女共同参画社会の実現をめざして、啓発や女性の活躍支援となる講座を開催しています。

知りたい

男女共同参画に関するさまざまな情報や用語説明を掲載した啓発誌などの発行や図書の貸出をしています。

交流したい

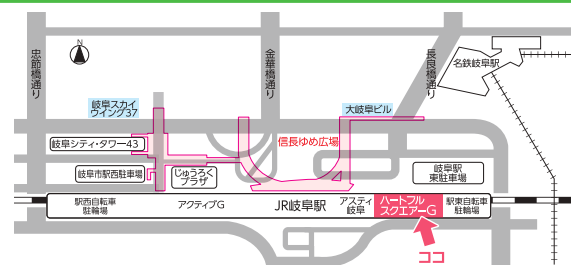
市民参加型交流会や男女共同参画の交流イベントの実施。市民・市民団体・事業者と協働し、ネットワークを形成しています。

困った

女性が抱えるさまざまな問題に、女性相談員や弁護士が相談に応じます。

ハートフルスクエアG 利用案内

- 開館時間 9:00～21:00
- 休館日 毎月最終火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始(12/29～1/3)
- アクセス JR岐阜駅中央改札口から徒歩2分



編集・発行

岐阜市女性センター 指定管理者：(公財)岐阜市教育文化振興事業団
〒500-8521 岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエアG内
TEL(058)268-1052 FAX(058)268-1057

ホームページ

岐阜市女性センター 検索

2020年3月発行

ともに輝く☆ぎふへ



男女共同参画啓発誌

Light

vol.2

岐阜市
女性センター

男女共同参画社会 × 防災

～人に優しい地域を目指して～

みんなが困る災害時。困るのはどんな人？どんなこと？
まずは知ることからはじめよう。

知っていますか？

忘れていませんか？

岐阜市でもこんなことがありました。

これからの男女共同参画社会は、
男女という「2色刷り社会」を
誰もがその人らしく伸びやかに生きる
「多色刷り社会」にしていくことです。

表紙写真：9.12 豪雨災害（昭和51年9月13日撮影）

男女共同参画社会 × 防災

男女共同参画社会とは、「その人らしく伸びやかに生きる」「性別に関わりなく、個性と能力を発揮し、責任を分かち合いながら共に歩む」社会のことをいいます。人に優しい地域社会を目指すために、防災や災害時にも男女という“二色刷り”の視点でなく、“多色刷り”の視点で支え合うことが大切です。



男性だから、女性だからというジェンダー意識に捉われて、こんな役割分担になっていませんか？

家庭で



多色刷りの
視点で…



家族の視点で考えよう

たとえば、家具の固定は男性、非常用持ち出し袋の用意は女性という性別で役割を分担するのではなく、家族一人ひとりが自分事として考え、それぞれの視点を出し合い相談しながら、いざという時の備えをしておきましょう。

地域で



多色刷りの
視点で…



得意分野で役割を分かち合おう

たとえば、避難所運営は男性、炊き出しは女性という性別で役割を分担するのではなく、地域の防災組織にさまざまな視点があると、より困りごとに気づきやすく、助け合えます。それぞれの得意分野で役割を分かち合しましょう。

困っている人ほど
自分から声を上げづらいものです。

普段から声をかけやすい関係性を作っておくことが何よりも大切です。自分が困ったとき誰と繋がっておくとよいのか考えたり、周りの困りごとに対して理解する姿勢があれば、より一層の配慮が工夫できます。



①～⑨について、どんな人がどんなことで、どうして困るのかを考えてみましょう



①トイレや更衣室
にいけない

②赤ちゃんが
ずっと泣いている



③物資を取りに
行きづらい

④避難所以外で
生活している



⑤立ち上がるこ
とが辛い



女性・男性・高齢者
乳幼児・子ども
シングルファミリー
障がい者・外国人
トランスジェンダー※

※自分が思っている性別と身体の特徴の性別が一致しない人

⑨とても疲れている

⑧乱暴になったり、
過剰に甘えたり、
室内にこもっている

⑦情報に
気づいていない

⑥食事に困る



たとえば、トイレに行きづらいのはどうしてかな？

- ・ 段差がある
- ・ 音が気になる
- ・ 和式
- ・ 男女別（トランスジェンダー）
- ・ 灯りが無い
- ・ 不衛生
- など

考えてみよう！

写真▶

益城町ボランティアセンター



日常にできないことは、災害時にもできません。普段から様々な立場の人たちがお互いに責任を分かち合いながら、手を取り合うことが大切です。誰もがその人らしく伸びやかに生きる「多色刷り社会」を目指しましょう。